

新刊紹介

◆杉本伊佐美編著 回想・河和田の里

〔A5判、「回想・河和田の里」刊行会刊

限定版、定価五、〇〇〇円〕

鯖江市の旧河和田村の歴史をまとめたもので、その編著者の杉本伊佐美氏が、昭和五〇年ごろから五年がかりで、おびただしい資料を駆使して仕上げた著作である。

内容は三五章にまとめられ、九章までは村の生い立ちから現在に至るまで、歴史の流れのなかでの庶民の生活を中心に詳述する。さらに風土・諸産業・年中行事・民謡・方言・伝説・芸能・文化財・人物等取り扱うが、とくに地域の特産で

ある漆器につき、その歴史的発展過程を興味ぶかく紹介している。

本書の序文で、福大名誉教授・岡山大学教授杉原丈夫氏が「この著は庶民の側に立ち、物事を庶民の眼で見ている。この書で著者が述べんとしていることは、英雄史でも行政史でもなく、庶民の生活史であり、世相史である。」と述べるっており、特に近・現代史の分野では、一般の庶民生活に視点をすえ、自らの体験を通しての貴重な記録であるだけに、はなはだ迫力に富んでいる。

杉本氏は、従来長年にわたり、地域の文化行動に主導的役割を果たしており、すでに『河和田の漆器』(昭31年)、『福井映画史』(昭47年)、『若越民謡大鑑』(昭48年)、『越前漆器物語』(昭50年)などの著書があるが、今回の発刊は、これら過去の業績の集大成的な意義をもつものと考えたい。

(三上記)